

NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト
第 11 期 2022 (令和 4) 年度活動事業報告



福島県福島市飯坂町字一本松 11-7

ごあいさつ

皆様、私たちの活動に理解とご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

東日本大震災、並びに福島第一原子力発電所事故後、市民の放射能測定への不安に対応し、市民放射能測定所としての活動から始まり、NPO 法人ふくしま30年プロジェクトが開始してから12年が過ぎました。

小学生は原発事故後に生まれた世代となり、中学生や高校生でも事故の記憶がほとんどないという状況にな

っています。大人でも記憶が薄れていく中で終わったこと、もしくは、過去の出来事というイメージも強くなっています。

未だ収束を見ない原発事故の記憶、そして記録を次世代にどのように伝えることができるのかを皆様と共に考えつつ活動を続けていきたいと思っています。

これからもよろしくお願いいたします。



理事長 佐原 真紀

令和5年5月

活動報告

●食品・環境放射能測定

食品・環境放射能測定については、トータル測定数が182件となり、2021（R3）年度と比較すると半減となりました【表1】。測定数が多いのは、みんなのデータサイトの「基準玄米」4濃度を7キット測定しました。そして、測定検体の傾向としては、食品が全体の85.7%と大部分を占め、残りは土壌が9.3%、環境が4.9%、という割合です【表2・図1】。

11月に冷却用液体窒素運搬容器「シーベル」が故障しました。魔法瓶のように内部が真空に保たれているのですが、容器内部で真空漏れが発生していました。修理不可ということでした。同じ型番の中古品を購入しました。

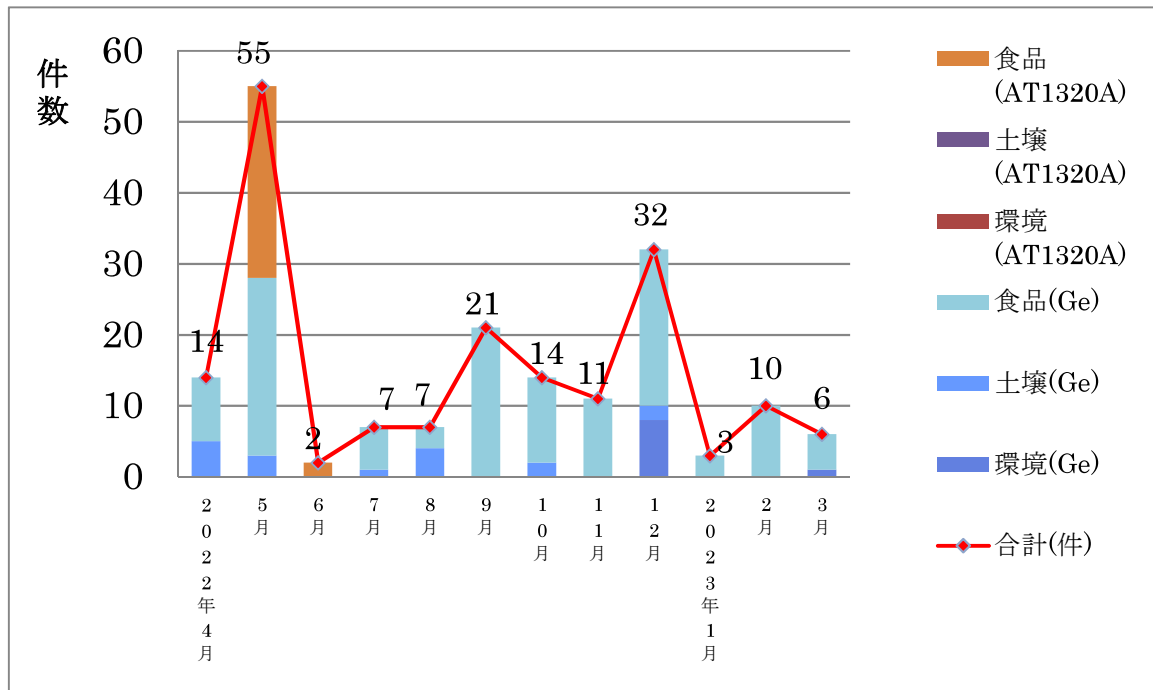
【表1】2013(H25)年度以降の年度別測定件数

2013 H25	2014 H26	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 H31	2020 R2	2021 R3	2022年度 R4年度
794	591	661	752	611	335	324	475	441	182

【表2】2022(R4)年度食品・環境試料測定件数

	環境(Ge)	土壌(Ge)	食品(Ge)	環境 (AT1320A)	土壌 (AT1320A)	食品 (AT1320A)	合計(件)
2022年4月	0	5	9	0	0	0	14
5月	0	3	25	0	0	27	55
6月	0	0	0	0	0	2	2
7月	0	1	6	0	0	0	7
8月	0	4	3	0	0	0	7
9月	0	0	21	0	0	0	21
10月	0	2	12	0	0	0	14
11月	0	0	11	0	0	0	11
12月	8	2	22	0	0	0	32
2023年1月	0	0	3	0	0	0	3
2月	0	0	10	0	0	0	10
3月	1	0	5	0	0	0	6
2022年度計	9	17	127	0	0	29	182
2021年度計	3	15	419	1	0	3	441

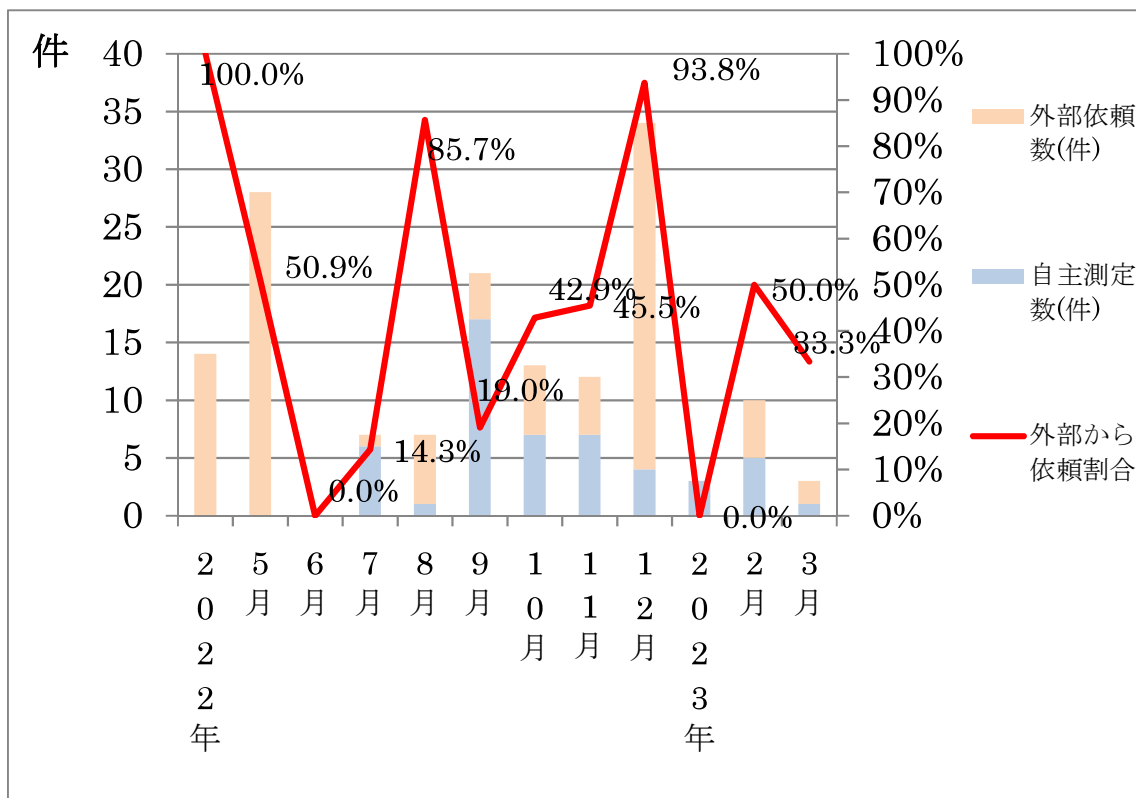
【図1】2022(R4)年度食品・環境試料測定件数



【表3】外部からの依頼件数

	全測定数 (件)	外部依頼数 (件)	自主測定数 (件)	外部から 依頼割合	備考(主な依頼者)
2022年4月	14	14	0	100.0%	食品販売会社、賛助会員
5月	55	28	0	50.9%	みんなのデータサイト、賛助会員
6月	2	0	0	0.0%	
7月	7	1	6	14.3%	新規依頼
8月	7	6	1	85.7%	賛助会員
9月	21	4	17	19.0%	新規依頼
10月	14	6	7	42.9%	賛助会員
11月	11	5	7	45.5%	賛助会員
12月	32	30	4	93.8%	食品製造会社、森林組合
2023年1月	3	0	3	0.0%	
2月	10	5	5	50.0%	賛助会員
3月	6	2	1	33.3%	新規依頼
合計	182	101	51	55.5%	

【図 2】 外部からの依頼件数



「キノコ測定」には「ラッシュジャパン チャリティバンク」の助成金を活用させていただきました。

●ホールボディーカウンタ(WBC)測定事業

ホールボディーカウンタ測定については、ありませんでした。

1. 2022（令和 4）年度の WBC 測定実績

2022（令和 4）年度の測定総数は、0 名です。

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業

WBC のバックグラウンド校正を下記のとおり 1 回行いました【表 4】。

【表 4】

年月	依頼先	作業内容
2023 年 7 月	NPO 法人 ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正

●勉強会

オンラインによる記憶と教訓の継承活動

2022年10月16日 「伝承館は原発事故の教訓をどう伝えていくのか？」

福島大学 後藤忍教授 参加者 70名

2022年11月13日 「原発事故とジェンダー 誰が事故の被害を語るができるのか」

宇都宮大学教授 清水奈名子教授 参加者 32名

2023年1月28日 「原発災害と研究者

「-チョルノブイリ原発事故(ウクライナ)の研究者が見つめた日本の原発災害-」

獨協医科大学 木村真三准教授 参加者 40名

当初の予定では会議室とオンライン併用の講演会を計画していましたが、新型コロナウイルス感染状況を鑑みオンラインのみ開催としました。

「オンラインによる記憶と教訓の継承活動」には「公益財団法人 大阪コミュニティ財団」の助成金を活用させていただきました。

●ふくしまくらす交流会

交流会の開催は無しという結果になりました。事業計画ではオンラインでの開催を計画していましたが、開催できませんでした。

●福島県内の状況を伝える、研修・交流会

2022年12月17日 「東日本大震災・原子力災害伝承館／とみおかアーカイブ・ミュージアム」

日帰り見学ツアー 参加者 2人

「日帰り見学ツアー」には「公益財団法人 大阪コミュニティ財団」の助成金を活用させていただきました。

●ホットスポットファインダー測定(空間線量マップ化)事業

●放射線健康管理・健康不安対策事業(放射線の健康影響に係る研究調査事業)

電気通信大学、大学院情報理工学研究科、石垣陽特任准教授からの業務委託事業の一環で、2022(令和4)年度は、ホットスポットファインダー測定を1件行ないました。

自宅周辺以外で長い時間を過ごす場所である「セカンドプレイス」(職場 保育所)において、放射線の健康影不安に対応するため、当事者(従業員 保護者)や専門家に加えて、事業者を巻き込んだ放射線リスクコミュニケーションを実現する。「福島県内の保育所 幼稚園を利用する保護者」を対象として、事業者を巻き込んだ合意形成を経て、リスクコミュニケーションツールの社会実

装モデル化までを行う。

今年度は福島市内の児童養護施設の協力のものとホットスポットファインダーで敷地内と小学校・中学校までの通学路の地上 10cm と 50cm と 100cm の線量測定を行いました。

職員の方に、子供たちがどこで遊んでいるか、どんなところに立ち寄るかなど話を聞きながら測定を行うことが出来ました。測定後、子供たちの行動と線量について、大人と子供の目線でリスクコミュニケーションについて話し合いを行いました。

● みんなのデータサイト（市民放射能測定データサイト）

<https://minnanods.net/>

参加測定室 全国 27 の放射能測定室

食品・環境データ数 21,386 件（834 件増）（弊法人 4,518 件（96 件増））

土壌データ数 3,542 件（5 件増）（弊法人 378 件（5 件増））

高濃度土壌データ数 107 件（弊法人 0 件）

2023（令和 5）年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定データの共有や連携を目指して立ち上げた『みんなのデータサイト』に参加しています。

2022（令和 4）年度の春には、たけのこ・山菜の測定プロジェクトに参加し汚染実態を広範囲に調査しました。

● 子どもの自然体験と交流事業

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら、福島県内での自然体験活動に力を入れる計画でしたが、今年度は実施できませんでした。

● 書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上 14,852 円、物品販売売上 0 円、賃貸収入 128,515 円

測定器レンタル利用者数 0 人

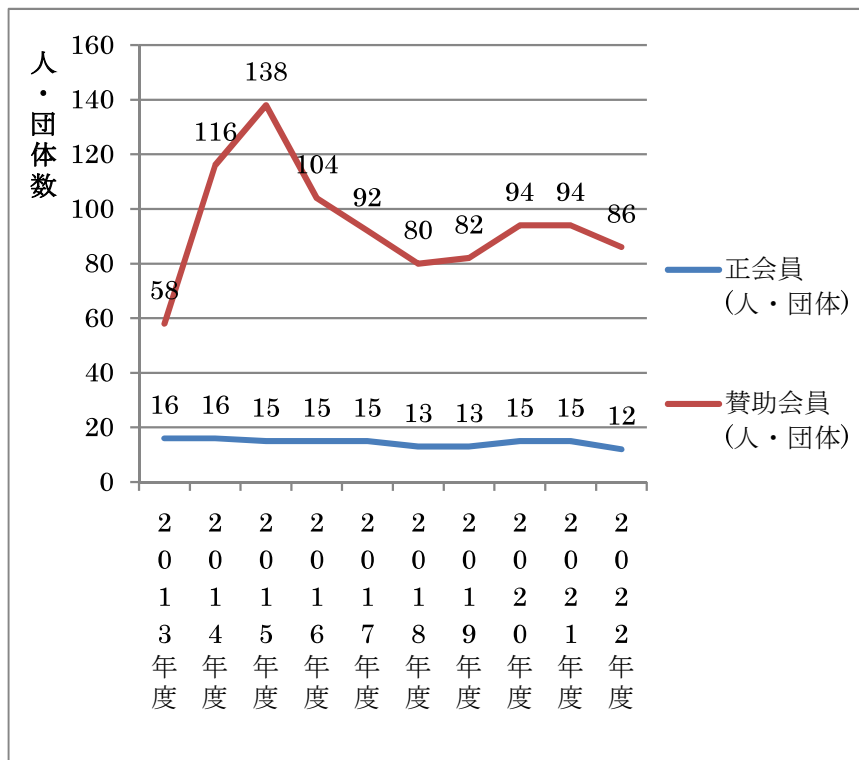
●会員数

2022（令和4）年度末の時点で正会員は12名でした、賛助会員は86名と少し減少しました。【表5・図3】。

【表5】 会員数推移

	正会員 (人・団体)	賛助会員 (人・団体)
2013 (H25) 年度	16	58
2014 (H26) 年度	16	116
2015 (H27) 年度	15	138
2016 (H28) 年度	15	104
2017 (H29) 年度	15	92
2018 (H30) 年度	13	80
2019 (H31) 年度	13	82
2020 (R2) 年度	15	94
2021 (R3) 年度	15	91
2022 (R4) 年度	12	86

【図3】 会員数推移



●認定 NPO 更新申請

昨年度 2022 年 3 月に更新申請を行いました。7 月に現地審査を受け無事に認定 NPO 法人の更新を認定されました。

なお有効期間が 5 年間です。有効期間が 2027（令和 9）年 7 月 20 日までになりました。